

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	26	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を意識して業務する	職員⇄家族、職員⇄ケアマネ 双方のコミュニケーションを密にとり現状に即した介護計画をケアマネに提案できるよう、日々の業務にあたる。	3ヶ月
2	24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人に生活歴の聞き取りを行う	沢山の情報を得る事で引き出しをみつけ、毎日を不安なく楽しく過ごして頂きたいと思っている。 まずは情報を集める事から始め、ファイリングしいつでも見れるようにする。	1ヶ月
3	21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲間意識を強める	職員が間に入り関係を取り持ったり、話を盛り上げることで和を保つ。	3ヶ月
4	3	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中で活かしていくことを意識する	家族や近所で認知症について困っている事があれば各々で発信していく。 介護保険を受けるまでの流れ、施設利用するまでの流れを理解していないとアドバイス出来ないので勉強する。	1年
5	4	○運営推進会議を生かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実施、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今まで以上にグループホーム楽々むらを身近に感じてもらうよう運営推進会議のあり方を工夫する。	早速来年度6月の運営推進会議で茶話会を予定し、まずは施設を知って頂き利用者とも触れ合う機会を持ちたいと考えている。	1年

6	6	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「介護制基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	好きな時に出入りできる環境、体制を作る	開錠はグループホームだけでなく施設、法人全体の事なので難しい。しかし要望があれば希望に添ってその都度、出て行けるように可能な限り対応する。	3ヶ月
7	35	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	地域の方に災害時の協力を依頼する	既に施設が動いており、運営推進会議の場で話をする予定。	1年

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。